

みやだ

Miyada Village Assembly News

平成29年11月9日

長野県上伊那郡宮田村議会



■ 整備された八丁坂の登山道

熱い！篤い！！ 山岳信仰・登山道整備

6月1日、宮田村では山の神々を新田の文化会館前庭にお迎えし、毎年恒例の「中央アルプス駒ヶ岳・宮田高原開山式」が観光協会・村・議会をはじめ多くの関係者の参列の下、盛大に開催されている。

登山者の安全祈願はもとより観光振興、山や里の平穏無事が祈願される。

また古くより「駒ヶ岳神社」を西駒ヶ岳本岳頂上に祀り、「駒ヶ岳神社奉賛会」を講人で組織し、6月下旬に祭事を行い篤く伝承されている。

10月17日には鉦立て権現とブナの森神社例祭が村、議会産業文教委員会、山林関係者、造林班等で2ヶ所に分かれ2礼2拍手1礼のみの日本一短い祭りとも言われる祭事が執り行われている。

一方同日、商工会主催により「不動滝・不動尊並びに金山彦大神」の例祭が神仏習合の形で開催され、神官による祝詞と住職による読経が順次行われ、産業の振興を願うと共に、地域の安全、人々の平穏無事が祈願された。

登山道整備には西駒ヶ岳の登山者の安全の為、自然環境を大切にしながら毎年毎年、国・県の補助を得て1千万円近くが掛けられている。

平成28年度 決算報告

一般会計

歳入総額 40億4,429万1千円

(前年度より2,934万5千円増加)

歳出総額 39億180万8千円

(前年度より8,744万6千円増加)

差し引き額 1億4,248万3千円

(前年度より5,810万1千円減少)

特別会計・事業会計決算

会計種別	歳入総額	歳出総額	差し引き総額
国民健康保険会計	9億3,212万円	8億7,409万円	5,803万円
介護保険会計	7億4,976万円	7億3,051万円	1,925万円
後期高齢者医療会計	9,092万円	8,983万円	109万円
水道事業会計	1億5,544万円	1億3,929万円	1,615万円
下水道事業会計	2億7,224万円	3億2,358万円	▼5,134万円

平成28年度の主だった事業実績

単位：千円

住民参画と協働の村づくり	44,826	商工業支援事業（プレミアム商品券等）	13,470
広報みやだの発行	3,050	観光振興事業（登山道整備等）	28,530
地域づくり支援事業（6地区）	2,419	道路維持管理事業	7,189
ケーブルテレビ行政番組制作	3,304	除融雪対策事業	4,283
福祉タクシー事業（利用枚数10,246）	7,176	常備消防（上伊那広域）	95,310
障がい者福祉医療費給付事業	22,937	消防施設整備（耐震防火水槽2基）	12,729
障がい者自立支援給付事業	137,329	小学校管理事務（事務機器・施設管理）	15,876
高齢者生きがい活動支援（ミニデー）	5,942	中学校管理事務（同上）	16,426
輝く子育て応援事業（保育料助成等）	26,687	学童保育事業	6,012
児童手当（延べ15,406人）	169,575	村民会館管理事務	20,969
保育所運営費（通常保育）	244,677	体育施設管理事業（委託料含）	105,153
上伊那広域ごみ処理負担金	34,127	上水道建設改良事業	9,050
地籍調査（631筆）	16,778	下水道長寿命化事業	37,852
村有林造林事業	12,330	普通財産取得（役場南用地購入）	21,768

決算委員会 付託議案の審査報告

決算委員会 委員長：宮井 訓

審査の経過、その過程において出された質問、意見について、代表的なものを以下に申し上げます。

歳入

歳入

Q：固定資産税の現年度分収入未済額 234 万円について、内訳はどうなっている。
A：「会社の倒産等で 160 万円・個人の生活困窮等の方が 5 名で 50 万円その他、相続放棄などで 20 万円ほどある。

Q：村の公売会の内容は。
A：不動産を 1 件売却し 250 万円分の滞納を処分した。

Q：住宅使用料の未収金の内訳は。
A：3 件の未収があり現在も 2 件ある。計画納税で減少させていきたい。

歳出

総務費

Q：コンビニ収納の手数料と村へ入金される日には。
A：手数料は 60 円で入金は確定で 4, 5 日後となっている。

Q：コミュニティ助成の現状は。
A：コミュニティ助成については「県の基準が厳しくなってきたり市町村でしぼってきている。

Q：地域おこし協力隊の業務や成果はどのようにおこなっているのか。
A：週の予定表を提出してもらっている、成果は面談などで確認し、定住につなげていきたい。

民生費

Q：子育て応援事業の検証は。
A：今年 8 月に保育園児の保護者に対しアンケートを実施した。おおむね満足していただいていると感じている。

Q：婚活のマッチングの現状についてはどうか。
A：委託先の社協と地域おこし協力隊の方と一緒にやっている。結婚相談の登録は村外でも構わない。

Q：なごみや利用者が減少しているように思うが。
A：県の事業などがあつたため考えられるが、素晴らしい施設で近隣からの視察もある。今後も多くの方が利用されるようにしていきたい。

衛生費

Q：ごみゼロの日の対応が区によって差があるが。
A：各区の衛生部の判断としている。今後も衛生部や区長会と話をしながら進めていきたい。

農林水産業費

Q：最近の農地転用の目的は。
A：人口増の観点から新規宅地の件数が多い。

Q：小三沢線の状況は。
A：未舗装だが車両の通行は出来る。雨が降ったりすると走行しにくい部分もある。

商工費

Q：観光費・工事請負費の不用額 121 万円はどのような内容か。
A：アサギマダラの整備費・赤そば祭りに設置予定だった歩道・看板等で仕様変更分である。

土木費

Q：道路補修で住民が行えるようなものがあるのか。
A：簡単に修繕できるようなキットがあるので材料と道具は用意できる。

消防費

Q：消防水利で「基準を満たさない」とはどういうことか。
A：150 パイの水道管や防火水槽で 40 立方以下の施設が当てはまる。通常であれば機能的には問題はない。

教育費

Q：学校の施設の老朽化についてはどのように考えているか。
A：来年度長寿命化を検討する。補助金等を使いながら行っていきたい。

Q：子育て支援の窓口一本化はどのようにおこなっていくのか。
A：多くの課との協議割合が必要であり、協議会の発足等で検討していく。

Q：NLT/ALT の配置後数年経過しているが効果は。
A：レシピ方式も加えて 4 年が経過し効果は出ている。2020 年度からの小学校英語授業開始により現場に混乱が起きないように教育委員会としても支援していく。

◆平成 28 年度宮田村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定

認定第 2 号

Q：来年度から制度が変わるが審議会後新たな情報は。
A：県の審議会から試算がでてきたが、まだ村の負担は確定していない。標準保険料率が示され 11 月末には県知事の決定がある。



9月定例会の主な内容

●平成28年度決算認定審査

- ◇平成28年度宮田村一般会計歳入歳出決算認定について
- ◇平成28年度宮田村国民健康特別会計決算認定について
- ◇平成28年度宮田村介護保険特別会計決算認定について
- ◇平成28年度宮田村後期高齢者医療特別会計決算認定について
- ◇平成28年度宮田村水道事業会計決算認定について
- ◇平成28年度宮田村下水道事業会計決算認定について

●平成29年度補正予算議案審議

- ◇平成29年度宮田村一般会計補正予算については、既定の予算額に歳入歳出それぞれ2億4千万1千円を追加し総額39億9,274万4千円とする事が可決決定されました。

主な事業として

- ◇ふるさと納税返礼特産品費用3千170万円
- ◇ふるさと納税寄付金に7千500万円を増額積み立て
- ◇障がい者自立支援給付事業扶助費として500万円
- ◇公害対策事業として地下水観測用井戸掘削129万6千円
- ◇企業誘致商工振興事業に276万5千円
- ◇橋梁長寿命化定期点検費用に400万円
- ◇駅前広場監視用防犯カメラ設置に60万円
- ◇予備費に7千万円増額
- ◇宮田村国民健康保険特別会計に6千7万6千円追加

●教育長の任命に関する同意を求める事について

●意見書の提出について

- ◇廃棄物の最終処分場建設について住民に寄り添った指導・判断をするよう求める意見書の提出について
- ◇道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律による補助率等の嵩上げ措置の継続に関する意見書の提出について
- ◇核兵器禁止条約に日本政府も参加することを求める意見書の提出について

以上3件の意見書を議員発議により提出しました。

平成29年 第3回（9月）議会議案審議・賛否議決結果 及び報告事項

	件名	賛成	反対	議決結果
条例等	宮田村工場立地法準則条例の制定について	11	0	可決
	宮田村福祉医療費特別給付金条例の一部を改正する条例案について	11	0	可決
	宮田村輝く子育て応援条例の一部を改正する条例案について	11	0	可決
決算認定関係	平成28年度宮田村一般会計歳入歳出決算認定について	11	0	認定
	平成28年度宮田村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	11	0	認定
	平成28年度宮田村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	11	0	認定
	平成28年度宮田村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	11	0	認定
	平成28年度宮田村水道事業会計決算認定について	11	0	認定
	平成28年度宮田村下水道事業会計決算認定について	11	0	認定
その他	宮田村道路線の認定について	11	0	可決
	宮田村道路線の変更について	11	0	可決
	教育長の任命に関し同意を求めることについて	11	0	同意
補正予算関係	平成29年度宮田村一般会計補正予算案について	11	0	可決
	平成29年度宮田村国民健康保険特別会計補正予算案について	11	0	可決
	平成29年度宮田村介護保険特別会計補正予算案について	11	0	可決
	平成29年度宮田村後期高齢者医療特別会計補正予算案について	11	0	可決
	平成29年度宮田村水道事業会計補正予算案について	11	0	可決
	平成29年度宮田村下水道事業会計補正予算案について	11	0	可決
意見書	廃棄物の最終処分場建設について住民に寄り添った指導・判断をするよう求める意見書の提出について	11	0	可決
	道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律による補助率等の嵩上げ措置の継続に関する意見書の提出について	11	0	可決
	核兵器禁止条約に日本政府も参加することを求める意見書の提出について	11	0	可決



宮井 訓

人口減対策の一層の充実を 図っていただきたい!

新築建築以外への
子育て応援金の支給について

質問 新築住宅建築以外で3世帯同居など村内定住してくれる方へリフォーム補助金以外に支援ができないか。

答弁 (村長) 親の所有している住宅を増築して、結婚後居住するケースや、他市町村に一旦出た子育て世帯が転入してくるケースの方への支援についても必要を感じている。人口増につながる子育て世帯への支援策を研究していく。

福祉避難場所や防災協定などの
見直しなどについて

質問 色んな地域や各種団体等をつなぐている防災協定だが、結ぶことに主眼を置いているように思える。内容の見直しは、また認識は一致しているか。

答弁 (村長) 協定については締結することが目的ではないので必要に感じましてより有効活用できるものに随時見直していくことは必要だと考えている。福祉避難所の受け入れ可能な対象

者と定員を各事業所と協議して決定する必要があると思っている。

また、障がいをお持ちの皆様方につきましては、障害者自立サービスなどのサービスの利用者でありましたら生活相談員やサービス事業所に状況の確認を行い、福祉避難所への避難の必要な対象者を見込んでいます。

支援が必要な子供たちについて

質問 支援が必要な子供たちへの支援は十分に行われているか。

答弁 (教育長) 発達障がいを抱えた子供さんへの支援は、個別の対応、支援が求められている。学校長と情報交換しながら、子供たちの居場所、生きがいがあり、個性が伸びる人的支援の充実に努めている。



川手 三平

戦後72年教育現場は 全員戦後生まれが現実!

平和な時に生まれ、日本が戦争をした事も忘れそうな今、平和学習の必要性

質問 敗戦後72年過ぎた今、今日まで戦争について語らなかつた人達がある。その重いつらさを開く姿が、各地で見受けられている。それは私たちが、戦争の実体験をリアルに知る最後の機会と考える。現在教育現場では、どの様な取り組みをしているのか、また平和に対する考えをお聞きたい。

答弁 (村長) 「核兵器廃絶平和都市宣言」・恒久平和を願い、ふれあい広場に「平和の塔」を建設。これらの思想を受け、私なりに発信している。核兵器廃絶は、思想とか心情を超え発信していく必要がある。また、憲法9条も世界に誇れるものと考えている。

答弁 (教育長) 今日の我が国の繁栄は、先人の計り知れない努力の結果、もたらされていることを認識する上で大変大事な、そしてなくてはならない学習だと認識している。

質問 村内戦争体験者の『生の声』を聴くことは大変意義のあること。学校

で聞く機会、住民に対する講演会や、記録保存も必要と思いが。

答弁 (教育長) 今年実際に戦争を体験され、講師として話をされた方が、村内にもまだおられることを再認識した。そんな点から遺族会、社会福祉協議会、関係団体とも連携し、教育委員会としてこういう方々の声を聴く機会を大事にしたいと思う。

地域における認知症への対応

質問 地域支え合いづくりで、問題となるのは要介護認定からはずれる認知症の人と、もっと重要なのは、その人を介護する人への、ケア対応だと思いがどう取り組むか。

答弁 (村長) 認知症の場合、認知症特有の症状から地域の支え合いで支援することは容易ではない。村の具体的取組として、以前の講師役である認知症キャラバンメイト登録者を対象に、スキルアップ研修会を予定している。そして、認知症の周知・啓発活動を行い、正しく理解していただける地域住民を増やして、住民による見守りを行なっていきたい。



小林 宏美

「税金で施設を作り
運営は民間で」の事業の
村の関わり方は

質問 国の地方創生交付金など税金を使って土地、建物、設備、環境整備などを行い、運営は民間事業者が担った事業、「村人テラス」「宮田高原の開発」のあり方について

答弁 (村長) 「村人テラス」はまちなかの活性化、コミュニティスペースの確保として位置付けられている。こどもから高齢者までだれもが活躍できるまちなかの活性化事業として、地方創生交付金事業を活用した事業である。

質問 村人テラスは運営法人からの要望で始めたのか。宮田高原の開発はどうか。これら民間運営型事業の村の関わりは。

答弁 (村長) 村は、運営する法人が行っている経営内容や効果をチェックするものではない。事業開始から3年間は、人的支援やだれもが気軽に立ち寄れて、さらに活躍できる場所づくりとして村は関わっていききたい。

質問 税金でやっているのだから、その経営がうまくいっているかどうか、村としてもチェックする必要があるか。

るのではないか。総合戦略全体の評価も必要だが、個々の細かな調査もしていく必要がある。(提言)

質問 移動販売車も含めて「村人テラス」の具体的運営計画(数値目標)は。

答弁 (村長) 運営する法人の計画について村は掌握するところではない。悩みや困ったこと等、共有して村は支援していききたい。

質問 人的支援としての地域おこし協力隊がうまくいっていないようにだが。

答弁 (村長) 村人テラスの要件を満たす、そういう人を募集していききたい。

核兵器禁止条約に参加を

質問 日本政府が一日も早く、核兵器禁止条約に参加すべきだと思いが。

答弁 (村長) 唯一の被爆国である日本が参加しないことについては、人道的見地から残念なことだと思っている。



小野 章

村長が従来から進めている
重点施策に問う

重点施策の成果と課題は

質問 活力みなぎる村づくりの施策で観光PRや特産品紹介、企業誘致など村長のトップセールスが行われているがこれまでの成果と村長の考える今後の課題は。

答弁 (村長) 企業訪問の際には村の特産品の紹介や観光宣伝、工場誘致の情報提供を行っている。また、企業版ふるさと納税のお願いもして420万円の協力をいただいた。観光PRにおいて東京スカイツリーのイベントの開催、新宿区大久保祭りへの参加、石川県穴水町との交流と東京や名古屋のスパーでの販路拡大に力を入れている。今後の課題として企業誘致における土地の確保が難しいため、既存の企業に支援していく。

質問 女性の知恵と力を村政に活かす施策で女性会議が開催されているが手応えと成果は。

答弁 (村長) 昨年の女性会議には80人、語る会でも300人強の女性の皆さんと意見交換をした。提案につ

ては第5次総合計画の後期基本計画やまち、ひと、しごと総合戦略に反映してきた。今後も単なる広報活動ではなく女性の力をもっと活かして協働のむらづくりにつながる女性会議となるように取り組む。

災害時における各分野との協定関係と防災全般について

質問 防災のまちづくりの推進、災害時における相互協力に関する協定書を友好関係にある市町村や日本福祉大学と結んでいるが今まで協力した実績はあるか。

答弁 (村長) 災害時相互支援協定を田原市、穴水町と結んでいるが穴水町とは職員を対象とした災害時の研修を行っている。日本福祉大学とは大学を核とした各自治体との交流促進、防災や減災の研究等の学習会を4回行っている。今後にも連携を強化する。





久保田秀男

小田切村政
二期目に向けての
抱負と課題は

質問 副村長時代を含め5年4ヶ月を振り返りなどの様な感想をお持ちか。

答弁 (村長) 今回無投票と言う事で白紙委任ではあるが、大変重く受け止めている。掲げた政策はある程度前進させたが、道のりは長く越えても越えても峠があると感じている。村民主役の村政を一層前進させたい。

質問 職員配置は適材適所で十分な能力が引き出されているとお考えか。

答弁 (村長) 多様化、煩雑化する行政業務の中ですべての職員を得意分野に配置する事は困難であるが9S活動を通して無駄を省きスピード感を持って、職員がその能力を十分発揮できる組織づくりをさらに進めたい。

質問 村が抱えている大きな課題に対し様々な組織の立上げをしてきたが、村長の思惑通りにその役割を果たしてきているか。又村長のリーダーシップは発揮されて来たか。

答弁 (村長) それぞれの協議機関は村民の声を十分に把握することを主眼

に於いており、一定の役割を果たしている。最終的に結論、決断するのは一番大切な任務だと考えている。それがリーダーシップであり、ご批判があるとなれば真摯に耳を傾けていきたい。

質問 「子育て支援日本一」を掲げているが高齢者や生活弱者障、障がい者等の課題も深刻化しつつある。バランスの取れた村政の発展を望みたいが。

答弁 (村長) 保育園の保護者アンケートでも子育てのしやすさとして8割以上の方が良い評価を載せており、成果が出ている。一方高齢化率は改善しないものの介護保険認定者数は県平均を5%以上下回っており、健康で暮らしておられることに感謝すると同時に、国県の事業だけでなく独自の補助事業も展開しており、上伊那でもトップクラスと自負している。



天野 早人

監査委員審査報告への
速やかな対応を

質問 監査委員から、①監査を受検する体制ができていない状況があること、②工事関係書類の不備があること、③発注手続きにおいて不適切な事例があること、などの指摘がなされている。行政の専門性を問われる事項というよりも、もっと基本的なレベルで課題があるように感じるが、村長はどう受けとめているか。

答弁 (村長) 基本的なところが欠如していると考えている。なぜできないかということからスタートしなければいけない。同じ指摘を繰り返されないようにしていきたい。監査結果はきちんと受けとめ、実行していかねればいけないと考えている。

質問 監査委員から、地域おこし協力隊についてその活動が見えないこと、3年後の定住につながるのかが課題であることが指摘されている。地域おこし協力隊の制度をどのように捉え、活用していくのか。

答弁 (村長) 現在6名の隊員を採用している。これまでそれぞれの隊員の希望に応じた事業を進めてきているが、さらにこの制度を活用し、地域の中

で進めていく具体的な事業に応じた活動を推進していただくための方向性と活動内容を特定した協力隊の募集について今後検討し、より定着、定住が進む形を検討しながら、事業推進をしてまいりたい。

質問 自治体の仕事として3年後も単費で人件費を出すつもりがないような、いわゆる一定のレベルに成熟していない行政施策の分野に、安易に地域おこし協力隊を活用するのは避けるべきではないか。

答弁 (村長) そのとおりだと思う。現在、100%そうなっているかという事は、なかなか課題があると捉えている。今後、一定の将来につながる業務に絞った形で、その募集内容についても、その業務に沿った適性、やる気等に則した中で募集活動をしていかなければいけないと思う。





城倉 栄治

・村長2期目の所信、具現化は
・中央アルプス山荘を観光拠点に

村長2期目の所信について

質問 村長の1期の重点施策「活力みなぎる宮田村づくり」「子育て支援日本一を目指す」「福祉の推進」「安心・安全な心安らぐむらづくり」「女性の知恵と力を村政にいかす」とされ村政経営してきた。2期目、重点施策に追加した「協働の村づくり」について所信と具体的な取組を聞きたい。

答弁 (村長) むらづくり基本条例で協働の村づくりが規定されている。行政、議会だけでなく住民がよりむらづくりに参加することで、裾野の広い強靱なむらづくりが達成できる。協働のむらづくりの取組には、活動をおこなう参加と意見をいただく参加がある。道路、河川の小修繕や草刈りなど地域活動への作業的な参加と、地域懇談会等で意見をいただき、村の施策につなげる参加などがある。今後、地域づくり支援金の増額も検討するとともに職員の地区担当制、村長とのおしゃべり会を推進していく。

まち、ひと、しごと創生総合戦略の推進について

質問 創生総合戦略の21のプロジェクトについてスタートして2年を経過した。残す期間は3年間だが事業経過の状況は。また、今後の進め方は。

答弁 (村長) 21のプロジェクトに掲げた98項目のうち、約6割の項目に着手した。5年間で集中して実施していく。事業を進めていく中では、その都度見直しと取組体制もふくめて一層の推進を図る。

質問 中央アルプスの山荘を観光拠点として開発する考えは。

答弁 (村長) 宮田村観光開発が運営しているため直接的には難しい。山荘の改修は必要と考えるので村としては県の補助事業の活用可否を検討したい。

<中央アルプス 宮田村の山荘>



加藤 恭一

観光協会を
一般社団法人化したらどうか

質問 現在の観光計画は今年度までのものとなっているが来年以降の観光計画策定はどのように取組んでいくのか。

答弁 (村長) 153号線バイパスの建設やリニア中央新幹線の整備による交流人口の変動等大きな要素を考えながら、議会、商工会の方々を初め、幅広い分野からの代表が参加している宮田村観光協会理事の皆さんを中心に策定会議を開催し、多くのご意見を取り入れながら進めていく。また、専門的な助言、指導が受けられるコンサルタントの活用も検討していく。

質問 現在の観光計画には六つの課題があったが、それらの課題についての克服状況をどのように考えているか。

答弁 (村長) 六つの課題の中で特に観光拠点施設の未整備という課題については、現在も大きな課題であると考えている。具体的には村全体を統括的に管理する拠点施設の建設とサテライト的に中央アルプスや宮田高原に配置できる観光ガイド等を検討しなければならないとも考えるので、そういった人材の育成やインフォメーションセンター的な観光案内所、特産品の販売や防災拠点施設ともなりうる道の駅のような施設の建設も必要と考えている。

質問 数年前に交流協会と観光協会が合併し新たな宮田村観光協会が発足したが、この宮田村観光協会の一般社団法人化を含めた今後の在り方についてどのように考えているのか。

答弁 (村長) 大きな自治体であれば観光協会は一般社団法人化して、観光業に携わる職員が行政とは別の組織として観光協会を支えて運営することができるとあるが、宮田村では観光に直接携わる事業者が非常に少ないことから、観光振興に直接つながる観光協会と捉える方は少ないのが実情である。一般社団法人化の考え方もあるが、多くの自治体で採算がとれず、大幅な赤字を計上しているところも多々ある。上伊那や伊南では行政観光協会とは異なるDMOの活用について協議しており、そうした動きに対しても対応できるように研究していきたい。





竹村 照美

地域包括支援センターについて

質問 介護保険機関の中核である地域包括支援センターに、要援護者と災害時の支援をつなぐマネジメントの役割を期待するという記述をよく見かけるが、この点についてどのように考え、どのような対策をしているのか。

答弁 (村長) 村では昨年度から福祉支え合い・防災マップの作成に各地区でも取り組んでいる。これからも社協、村の防災、福祉担当と連携をして災害に強い体制の整備を進めていきたい。福祉避難所の受け入れ体制については、災害時にも有効に機能するよう地域包括支援センターと取り組んでいきたい。

質問 利用者、サービス事業者、医療関係、民生委員、一般住民、消防関係団体等々を含む地域支援ネットワークの構築が必要ではないか。

答弁 (福祉長) 医療や事業所等の連絡について、高齢者の情報等の確認作業をしており、その中で支援のできる方、出来る場所の把握等に努めていきたい。

電子母子手帳

質問 災害時でも記録が残る「電子母

電子母子手帳導入の

考えは。

子手帳」の導入はいかがか。プライバシー保護については手法もあり、自治体間のバラツキに関しては来年度には標準化が可能とも言われている。

答弁 (村長) 情報が容易に入手できる利点はあるが、利用するお母さん方がきちっと入力管理をしないと価値や効果が薄くなる可能性もあり、導入した自治体の状況を研究し、お母さん方の意見を聞いて判断したい。

見守りシールの配布について

質問 若年認知症、認知症高齢者が行方不明になった場合に備え、アイロンやドライヤーで貼ることができる見守りシールはどうか。

答弁 (村長) 実施している自治体の効果、記載内容等を検証する必要がある。人権への配慮、村民の受け止め方の確認もあり、検討課題である。

村長と語るう会について

質問 出された意見に対して、どのように村政に反映されているのか。

答弁 (村長) 制度の充実や運用の改善に結びつけてきた。今後も丁寧に取り組んでいきたい。

議会トピックス * 7月・8月・9月

7月 1日	子どもの安全を考える会	21日	伊南行政組合議会定例会
4日	伊南防犯会議総会 (議長)		決算委員会産業文教評価部会
6日	伊勢滝の風発表会	28・29日	上伊那広域連合議会定例会
7日	町村議会改革シンポジウム	30~31日	産業文教委員会中ア視察
14日	県へ意見書の提出	31日	決算委員会総務厚生評価部会
	有害鳥獣駆除推進協議会総会	9月 3日	宮田村防災訓練
19日	環境問題特別委員会・議員研修	4日	一般質問通告・議会運営委員会
21日	南部国道連絡会総会	7日	9月定例会開会
23日	みやだクリテリウム	11・12日	定例会一般質問
26日	交通安全人波作戦	14日	決算委員会産業文教評価部会
27日	環境問題特別委員会		産業文教委員会
	環境を守る会全体会議	15日	決算委員会総務厚生評価部会
28日	議会運営委員会・臨時議会		総務厚生委員会
	議会全員協議会	16日	さとう宗幸ふるさと大使任命式
	伊南市町村議会議員研修	19日	決算委員会
8月 3・4日	議会運営委員会視察研修	21日	議会運営委員会
15日	宮田村成人式		議会全員協議会・定例会最終日

決算委員会による

決算特別評価

毎年9月の議会定例会で、行政が前年度予算を適正に執行したかどうかを確認する「決算の審査・認定」を行います。宮田村議会では、全議員の参加による「決算委員会」を立ち上げ、行政のあらゆる分野に及ぶ決算の審査と認定を行っています。

宮田村議会が決算委員会を実施している「決算特別評価」は、選定した特定の事業について追加調査を行い、決算の審査と認定を一層充実させることが目的です。これは、「宮田村むらづくり基本条例」に基づく議会改革の取り組みの一つです。

議会部門の評価

● 評価指標の概要

数値が小数点以下までである場合、議員によって評価がわかれたことを意味しており、その平均値を表記してあります。「今後の方向性」の数値は平均点ではなく、「拡充・継続・縮小・廃止」をそれぞれ選択した議員の数をあらわしています。

1、必要性

< 住民からのニーズ >

4	増大または極めて高い
3	従来どおりまたは高い
2	減少またはやや低い
1	かなり減少または低い

< 村が実施することの妥当性 >

4	村が実施することが法令等で定められている
3	適当な移管先がなく村が実施する必要がある
2	一部を村以外の主体へ移管できる
1	大半を村以外の主体へ移管できる

2、有効性

< 期待される効果の達成状況 >

4	かなり効果あり
3	一定の効果あり
2	効果は小さい
1	ほとんど効果なし

3、効率性

< コスト削減の余地 >

4	余地なし
3	当面削減できない
2	一部削減できる
1	大幅に削減できる

4、優先性

< 各課の予算が大幅に削減されたと仮定した場合の対応 >

4	他の事業より優先して行う
3	事業費を一部縮減して行う
2	事業費を大幅に縮減して行う
1	廃止する

5、総合評価

4	極めて良好に実施
3	適切に実施されている
2	一部改善の余地あり
1	改善を要する

6、決算委員会全体で見た今後の方向性 拡充・継続・縮小・廃止

◆ 評価対象事業

「環境問題特別委員会」

平成 28 年 4 月、放射性物質を含む廃棄物最終処分場建設問題と一般国道伊駒アルプスロードバイパス問題に関し、議会として調査研究を行い、情報の共有を図るため、議会に「環境問題特別委員会」を設置しました。議会としては、「継続」と判断しました。

1	2	3	4	5	6
必要性	有効性	効率性	優先性	総合評価	今後の方向性
ニーズ	妥当性	2.80	3.20	3.00	1.80
3.60	3.00				11/11 人

< 今後の方向性の理由・意見・提案 >

- 各議員がそれぞれ参加している各種関連組織の動向について、情報の提供・共有と意見交換を行ってきたが、議会だよりの充実化などで住民との共有強化が必要である。
- 委員会設置の目的と現状が分かりにくくなってきているので方向性を確認するべきである。



◆ 評価対象事業

「議会研修」

宮田村議会では研修要綱に基づき、先進地等の事例の調査研究を行ったり、専門的知見を有する者を講師として招聘するなど、専門的知識を高めるための研修を行っています。平成 28 年度の決算額は 31 万 2 千円。議会としては、「継続」と判断しました。

1	2	3	4	5	6
必要性	有効性	効率性	優先性	総合評価	今後の方向性
ニーズ	妥当性	2.80	3.00	2.60	2.40
2.40	3.80				11/11 人

< 今後の方向性の理由・意見・提案 >

- 研修内容については報告書の発行・配布・公開により情報共有を行ってきたが、その内容をどのように活かしていけるのかについては、全議員で意見交換の場を持つ必要がある。
- 委員会（議員）として先進地を見ることは重要である
- 一般質問などで取り上げること村政にも役立つと考えている。



◆ 評価対象事業

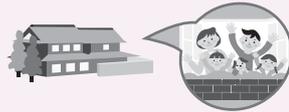
「定住促進事業 (移住体験住宅)」

移住・定住の促進のため、移住体験住宅「ベースみやだ」を運用するものです。1泊1人1,000円で、1泊2日から30日以内で利用が可能です。2年間の利用件数は76件で実際の移住件数は7件でした。建物は平成27年度に取得しているため(1,000万円)、平成28年度の予算額はゼロ。議会としては、「継続」と判断しました。

1		2	3	4	5	6
必要性		有効性	効率性	優先性	総合評価	今後の方向性
ニーズ	妥当性	3.33	3.50	3.50	3.33	継続
3.00	3.50					11/11人

< 今後の方向性の理由・意見・提案 >

- ・利用者の声を分析し、目的に沿った施設の利用度を高め、地域を知ってもらうことにつなげていく必要がある。
- ・1年半の利用で7組の移住があったという成果からみると効果的な事業であると考えられる。
- ・安易な宿泊施設として利用されないように利用目的を注視する必要があり、施設の経年劣化による修繕費用等も考えておくべき。



◆ 評価対象事業

「定住促進事業 (UIJ ターン就活バスツアー)」

移住・定住促進イベントの一環として、就職活動を支援するため、上伊那広域連合・南箕輪村・若者人材確保協会と連携し、企業バスツアーを実施したものです。参加者は27名。平成28年度の決算額30万円。議会としては、「継続」と判断しました。

1		2	3	4	5	6
必要性		有効性	効率性	優先性	総合評価	今後の方向性
ニーズ	妥当性	3.00	3.00	3.17	3.00	継続
3.00	2,67					11/11人

< 今後の方向性の理由・意見・提案 >

- ・職安、企業、近隣自治体と連携しながら、粘り強く取り組んでいく必要がある。
- ・上伊那広域や他市町村とも協力しながら企業のPRなども盛り込んでいけば参加者が増加すると思われる。
- ・参加者のアンケート調査を行い、適宜に行っていくと認知度も上がると思う。



◆ 評価対象事業

「自転車大会」

平成21年度から、村で実行委員会を組織し、全日本実業団自転車競技大会として継続的に共催してきた大会です。平成28年度の決算額は59万1千円。議会としては、「継続」と判断しました。

1		2	3	4	5
必要性		有効性	効率性	優先性	総合評価
ニーズ	妥当性	2.00	2.17	1.67	1.67
1.67	1.83				
		6	継続	縮小	廃止
		今後の方向性	7/11人	1/11人	3/11人

< 今後の方向性の理由・意見・提案 >

- ・住民の関心が高いとは言えず、競技についてのPRも不足している。
- ・事業効果を疑問視する意見もあり、運営や組織のあり方を抜本的に見直す必要がある。
- ・ボランティアの現状なども検討し住民との協働をどう図っていくのかも検討すべき。
- ・総合計画に掲げてあるので継続だが村にメリットがあるような運営方法を検討すべき。



◆ 評価対象事業

「輝く子育て応援事業 (保育料助成金)」

次代を担う子供たちの成長を応援するとともに、育児出産等にもなう系残負担を軽減するため、第3子以降の保育料相当額の10割を助成する事業です。平成28年度の決算額は1515万2千円。議会としては、「継続」と判断しました。

1		2	3	4	5	6
必要性		有効性	効率性	優先性	総合評価	今後の方向性
ニーズ	妥当性	3.17	3.00	3.67	3.17	拡充 継続
3.33	3.50					2/11人 9/11人

< 今後の方向性の理由・意見・提案 >

- ・アンケートの結果などから住民からのニーズは高いと考えられるので継続すべき事業である。
- ・高所得者への支援も本当に必要なのか疑問な点もあるので一考も要する。
- ・村の人口増施策の一環として、広報活動も含めて拡充すべき。



絶対反対! 廃棄物処分場問題について

九月定例議会初日、冒頭の最終処分場建設問題に関する意見書を全員一致で可決し、阿部長野県知事に送りました。

六月議会では、放射性廃棄物の県内持ち込みに対し、県として独自の基準を設けるよう要望しました。今回は最終処分場建設に当たって、特に河川の近くに予定する場合は関係する住民のみならず、下流域の住民からも同意を得るよう事業者に対し行政指導を行うこと、及び近年頻発する異常気象や災害に対し、将来に不安を残さないよう行政指導を行うことなど5項目を求める内容です。

同じ意見書を県に提出していただける様、上下伊那の市町村議会にも、請願・陳情をお願いし、各議会でも決（一部趣旨採択）、県知事あてに意見書が提出されました。県としても多くの議会の意見書を重く受け止めて、業者より建設認可申請が提出された場合は慎重なる対応がなされる様しっかりと監視して参ります。



産業文教委員会視察報告 視察先 * 駒ヶ岳登山道

産業文教委員 田中 一男

産業文教委員会では、駒ヶ岳の登山道と3つの山荘の視察を8月30日（水）、31日（木）に行ないました。朝6時50分役場を出発、しらび平へ向かい、7時50分発の始発のロープウェイにて千畳敷に到着。あいにくの雨模様のため、展望は望めませんでした。

千畳敷から乗越浄土に上る「八丁坂」は勾配がきつく駒ヶ岳に登る難所です。この八丁坂の整備に、平成27年度より国県の補助金を使つての工事を行っています。平成27年度は国の「地方創生交付金」1千万円、平成28年度は「地方創生交付金」1千万円と県の補助金2百万円、いずれも補助率は二分の一です。今後平成29年度から31年度までの3年間で、各年度1千万円で、八丁坂上部のハシゴ部分を主体に整備を進める予定です。



巻道付近の「針のような岩」など条件としては満たしています。しかし、駒ヶ岳から濃ヶ池、宮田高原、西山山麓、街中への人の流れをどう作るか今後の課題です。

中学校の集団登山も様変わりしています。往復徒歩での登山は、赤穂中学校のみ、宮田中学校を含め行きは徒歩で帰りはロープウェイの学校が大半だそうです。また往復ロープウェイを使つての日帰り登山の学校もあります。当日も下伊那郡の学校と同じロープウェイで登りましたが、日帰りだそうです。生徒の健康、安全面また引率の教員の負担軽減などの理由があると思われるが、少しさみしい気がしました。

この登山道視察で感じたことは、きつい八丁坂の登山道も整備が進み歩きやすくなってきました。ゴミ等も少なく登山者のマナーも良くなっています。

今回は天候が悪かったため、濃ヶ池まで行けませんでした。濃ヶ池から伊勢滝への登山道の視察も必要と思われる。

12月議会会期中日程予定

12月	5日	… 定例会（開会）	… 午前9時～
	7日	… 一般質問	… 午前9時～
	8日	… 一般質問	… 午前9時～
	11日	… 産業文教委員会	
	12日	… 総務厚生委員会	
	14日	… 定例会（最終日）	

すべての会議が公開されますので
傍聴においでください！

編集後記

立冬も過ぎ朝夕は冷たさを感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も地震・豪雨・台風等による被害が各地であり、それも年々深刻化しています。大きな災害のない宮田村は安心！は、今日まで。明日は一転するかも知れません。大切な家族を守るために今、何をしておくべきか、何をどのくらい備えておけば安心なのか。自分自身を守ることは、共助という大きな力につながっていくはずですよ。さあ、準備を始めませんか。

竹村 照美